

みずほマーケット・トピック(2017年6月30日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参考下さいませ。

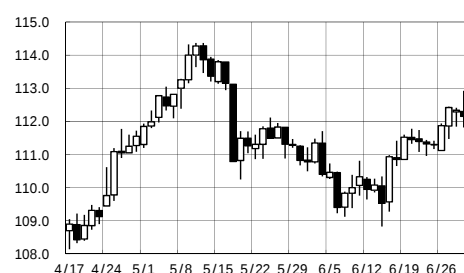
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は堅調に推移。週初 26 日、シドニー時間に週安値となる 111.13 円をつけたドル/円は、堅調なアジア・欧州株を背景にクロス円が買われる動きに 111 円台後半まで上昇。米 5 月耐久財受注の冴えない結果に軟化する場面もみられたが、米国株の上昇などを受けて 112 円付近まで値を上げた。27 日もドル買い優勢地合いが続く中でドル/円は 112 円を上抜けたが、本邦実需勢による円買いに押されて 111 円台前半まで急落。しかし、ドラギ ECB 総裁が「中央銀行(ECB)は政策手段のパラメーターを調整することで景気回復に対応することが可能」と発言すると、ユーロ/円の上昇に連れてドル/円は 112 円台半ば近辺まで急伸した。四半期末のスポット末日に当たる 28 日は、本邦実需勢の円買いフローが入り 112 円近辺までじりじりと値を下げる展開。前日のドラギ総裁コメントは量的緩和の縮小を示唆するものではないとの ECB 関係者の話が伝わるとドル/円は一時 112 円を割れたが、イングランド銀行(中央銀行、BOE)のカーニー総裁が緩和策の縮小を示唆すると英ポンド/円が急騰し、ドル/円は 112 円台前半まで連れ高となった。29 日は米 1~3 月期 GDP(3 次速報値)が上方修正されると米金利が上昇し、ドル/円は一時週高値となる 112.92 円まで値を上げた。しかしながら、米株が下げ幅を拡大すると売り戻され、111 円台後半まで急落。本日のドル/円は、日経平均株価が軟調な中、111 円台後半で上値重く推移している。
- ・今週のユーロ/ドル相場は大幅に上昇する展開。週初 26 日に 1.12 近辺でオープンしたユーロ/ドルは、欧州株の堅調推移を受けて 1.12 台前半まで上昇。その後は、ドラギ総裁がギリシャの債務問題について懸念を表明したことが売り材料となり一時週安値となる 1.1172 をつけた。27 日はドラギ総裁のタカ派的な発言を受けて独金利が急騰する展開に 1.13 台半ばまで急伸した。28 日もユーロ買いの流れが続き 1.13 台後半まで上値を伸ばしたが、ECB 関係者による昨日のドラギ総裁の発言は目先の量的緩和縮小を示唆していないとの発言を受け、一時 1.13 割れまで急落。だが、カーニー-BOE 総裁によるタカ派的な発言を受けて英ポンドが急伸すると、ユーロ/ドルも 1.13 台後半まで連れ高となった。29 日もユーロ買い優勢地合いは続き 1.14 を上抜け、米経済指標の良好な結果と米金利上昇を背景に一時 1.14 を下回ったが、引けにかけて米金利が低下に転じると週高値となる 1.1445 をつけた。本日のユーロ/ドルも週高値圏で推移している。

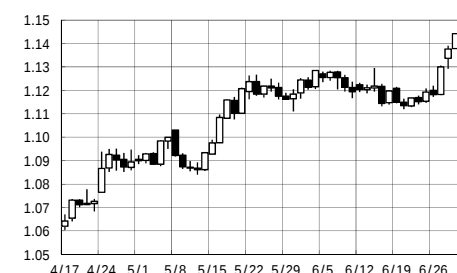
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		6/23(Fri)	6/26(Mon)	6/27(Tue)	6/28(Wed)	6/29(Thu)
ドル/円	東京9:00	111.30	111.25	111.89	112.20	112.36
	High	111.43	111.94	112.46	112.42	112.92
	Low	111.16	111.13	111.47	111.83	111.81
	NY 17:00	111.30	111.87	112.35	112.34	112.15
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1150	1.1200	1.1183	1.1337	1.1378
	High	1.1209	1.1220	1.1349	1.1391	1.1445
	Low	1.1145	1.1172	1.1179	1.1290	1.1375
	NY 17:00	1.1193	1.1182	1.1339	1.1377	1.1442
ユーロ/円	東京9:00	124.11	124.59	125.10	127.18	127.81
	High	124.70	125.14	127.48	127.86	128.82
	Low	124.04	124.48	124.75	126.50	127.76
	NY 17:00	124.60	125.08	127.39	127.78	128.30
日経平均株価		20,132.67	20,153.35	20,225.09	20,130.41	20,220.30
TOPIX		1,611.34	1,612.21	1,619.02	1,614.37	1,624.07
NYダウ工業株30種平均		21,394.76	21,409.55	21,310.66	21,454.61	21,287.03
NASDAQ		6,265.25	6,247.15	6,146.62	6,234.42	6,144.35
日本10年債		0.06%	0.05%	0.05%	0.06%	0.06%
米国10年債		2.14%	2.14%	2.21%	2.23%	2.27%
原油価格(WTI)		43.01	43.38	44.24	44.74	44.93
金(NY)		1,256.75	1,244.73	1,247.13	1,249.25	1,245.52

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・ 米国では、7月3日(月)に6月ISM製造業景気指数の発表があり、各地区連銀の製造業指数は5月から上昇しているものが目立つ中、市場では55.0と4月の54.9から改善すると予想されている。また、6日(木)の6月ADP雇用統計は前月比+17.8万人と5月(同+25.3万人)から増加ペースが鈍化すると見込まれているが、結果を受けて翌日発表の雇用統計の予想を方向付けるだろう。7日(金)に発表される6月雇用統計では、非農業部門雇用者数(NFP)が前月比+17.9万人(5月:同+13.8万人)と予想されており、増加ペースが加速する見通しだ。関連指標を確認すると、週次の失業保険統計では、雇用統計調査週(12日を含む週)の新規失業保険申請件数はほぼ横ばいであり、ニューヨークおよびフィラデルフィア連銀で発表された6月製造業景気指数の雇用DIは2か月連続で低下しているが高水準を維持している。失業率に関しては4.3%と横ばいになると見込まれている。金融政策関連では、5日(木)にFOMC議事要旨が公表されるほか、3日(月)にブラード・セントルイス連銀総裁、6日(木)にはパウエルFRB理事の講演が予定されている。
- ・ 本邦では、3日(月)に日銀短観(6月調査)が公表される。大企業・製造業の業況判断DIは+15と、前回3月調査から3ポイント改善すると見込まれている。輸出の増勢はやや一服感はみられるものの、国内自動車販売などに支えられて生産は堅調に推移している。また、資本財出荷(除く輸送機械)も持ち直しており、設備投資の底堅さが示されている中で、業況判断は改善しているとみられる。大企業・非製造業の業況判断DIも+23と、3月調査から3ポイント上昇すると予想されている。個人消費の緩やかな回復を背景に小売業などの業況判断が全体を押し上げた可能性が高い。業況判断DIと連動性の高いロイター短観でも、製造業・非製造業ともに改善が確認されている。2017年度の設備投資計画(大企業・全産業)は前年比+7.2%と、3月調査の同+0.6%から上方修正される見込みだ。6月調査は大幅に上方修正されることが多く、予想通りとなれば昨年度の6月調査時点の計画を上回ることになる。近年の6月時点の計画と比べるとやや小幅な上方修正にとどまる見通しであるものの、企業収益の改善などを背景に設備投資意欲の持ち直しを示唆する結果となりそうである。

	本 邦	海 外
6月30日(金)	・5月新設住宅着工	・米5月個人消費・所得 ・米5月PCEデフレーター ・米6月シカゴ購買部協会景気指数 ・ユーロ圏6月消費者物価(速報)
7月3日(月)	・6月自動車販売台数 ・日銀短観(6月調査)	・米6月ISM製造業景気指数 ・米5月建設支出 ・ユーロ圏5月失業率
4日(火)	・6月マネタリーベース	
5日(水)		・米5月製造業新規受注 ・米5月耐久財受注(確報) ・米FOMC議事要旨(6月13~14日開催分)
6日(木)		・米6月ADP雇用統計 ・米5月貿易収支 ・米6月ISM非製造業景気指数
7日(金)	・5月毎月勤労統計 ・5月景気動向指数(速報)	・米6月雇用統計 ・G20首脳会議(ハンブルク)

【当面の主要行事日程(2017年6月~)】

米FOMC(7月25~26日、9月19~20日、10月31日~11月1日)

ECB政策理事会(7月20日、9月7日、10月26日)

日銀金融政策決定会合(7月19~20日、9月20~21日、10月30~31日)

ドイツ総選挙(9月24日)

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー (2017年6月)

月	火	水	木	金	週末
			1 日本 法人企業統計(1～3月期) 日本 自動車販売台数(5月) 米国 ADP雇用統計(5月) 米国 労働生産性(確報、1～3月期) 米国 ISM製造業景気指数(5月) 米国 建設支出(4月)	2 日本 マネタリーベース(5月) 米国 雇用統計(5月) 米国 貿易収支(4月)	
5 米国 製造業新規受注(4月) 米国 耐久財受注(確報、4月)	6 日本 毎月勤労統計(4月) 米国 労働市場情勢指数(5月)	7 日本 景気動向指数(速報、4月) 米国 消費者信用残高(4月) ユーロ圏 GDP(確報、1～3月期) ドイツ 製造業受注(4月)	8 日本 GDP(1～3月期、確報) 日本 国際収支(4月) 日本 貸出・預金動向(5月) 日本 景気ウォッチャー調査(5月) 日本 *企業倒産件数(5月) ユーロ圏 ECB理事会(タリン) ドイツ 鉱工業生産(4月)	9 日本 マネースtock(5月) 日本 第三次産業活動指数(4月) 米国 卸売在庫(確報、4月) 米国 卸売売上高(4月) ドイツ 貿易収支(4月)	
12 日本 国内企業物価(5月) 日本 機械受注(4月) 米国 財政収支(5月)	13 日本 法人企業景気予測調査(4～6月期) 米国 FOMC(～14日) 米国 生産者物価(5月) ドイツ ZEW景況指数(6月)	14 日本 鉱工業生産(確報、4月) 米国 消費者物価(5月) 米国 小売売上高(5月) 米国 企業在庫(4月) ユーロ圏 鉱工業生産(4月)	15 日本 日銀金融政策決定会合(～16日) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(6月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(6月) 米国 鉱工業生産(5月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、4月) ユーロ圏 財務相会合(ルクセンブルク) ユーロ圏 貿易収支(4月)	16 米国 住宅着工(5月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、6月) ユーロ圏 EU経済・財務相会合(ルクセンブルク) ユーロ圏 消費者物価(確報、5月)	
19 日本 貿易収支(5月)	20 米国 経常収支(1～3月期) ユーロ圏 経常収支(4月)	21 日本 金融政策決定会合議事要旨(4月26～27日開催分) 米国 中古住宅販売(5月)	22 米国 景気先行指数(5月)	23 米国 新築住宅販売(5月) ユーロ圏 製造業PMI、サービス業PMI(6月)	
26 日本 日銀金融政策決定会合による主な意見(6月15～16日開催分) 日本 企業向けサービス価格(5月) 日本 景気動向指数(確報、4月) 米国 耐久財受注(速報、5月) ドイツ IFO企業景況指数(6月)	27 米国 S&P/コアロジックケース・シラー住宅価格(4月) 米国 消費者信頼感指数(6月)	28 米国 卸売在庫(速報、5月)	29 日本 商業販売統計(5月) 米国 GDP(3次速報、1～3月期)	30 日本 労働力調査(5月) 日本 家計調査(5月) 日本 全国消費者物価(5月) 日本 東京都都区消費者物価(6月) 日本 鉱工業生産(速報、5月) 日本 新設住宅着工(5月) 米国 個人消費・所得(5月) 米国 PCEコアデフレーター(5月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(6月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、6月) ユーロ圏 消費者物価(速報、6月)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー (2017年7月)

3月		火		水		木		金		週末	
3	日本 日銀短観(6月調査) 日本 自動車販売台数(6月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、6月) ユーロ圏 失業率(5月) 米国 ISM製造業景気指数(6月) 米国 建設支出(5月)	4	日本 マネタリーベース(6月)	5	ユーロ圏 サービス業PMI(確報、6月) 米国 製造業新規受注(5月) 米国 耐久財受注(確報、5月) 米国 FOMC議事要旨(6月13～14日開催分)	6	ドイツ 製造業受注(5月) ユーロ圏 ECB理事会議事要旨(6月8日開催分) 米国 ADP雇用統計(6月) 米国 貿易収支(5月) 米国 ISM非製造業景気指数(6月)	7	日本 毎月勤労統計(5月) 日本 景気動向指数(速報、5月) ドイツ 鉱工業生産(5月) 米国 雇用統計(6月) 米国 失業率(6月) ハンブルク(ドイツ) G20首脳会議(～8日)		
10	日本 機械受注(5月) 日本 国際収支(5月) 日本 貸出・預金動向(6月) 日本 景気ウォッチャー調査(6月) ドイツ 貿易収支(5月) 米国 労働市場情勢指数(6月) 米国 消費者信用残高(5月)	11	日本 マネースtock(6月) 米国 卸売売上高(5月)	12	日本 国内企業物価(6月) 日本 第三次産業活動指数(5月) ユーロ圏 鉱工業生産(5月) 米国 ペーシェブック	13	ドイツ 消費者物価(確報、6月) 米国 生産者物価(6月) 米国 財政収支(6月)	14	日本 鉱工業生産(確報、5月) ユーロ圏 貿易収支(5月) 米国 消費者物価(6月) 米国 小売売上高(6月) 米国 鉱工業生産(6月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、7月) 米国 企業在庫(5月)		
17	日本 海の日 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(7月)	18	ユーロ圏 消費者物価(確報、6月) ドイツ ZEW景況指数(7月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資、5月)	19	日本 金融政策決定会合(～20日) 米国 住宅着工(6月)	20	日本 貿易収支(6月) ユーロ圏 経常収支(5月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(7月) 米国 景気先行指数(6月)	21			
24	日本 景気動向指数(確報、5月) ユーロ圏 製造業PMI(速報、7月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、7月) 米国 中古住宅販売(6月)	25	日本 金融政策決定会合議事要旨(6月15～16日開催分) ドイツ IFO企業景況指数(7月) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(5月) 米国 消費者信頼感指数(7月) 米国 FOMC(～26日)	26	日本 企業向けサービス価格(6月) 米国 新築住宅販売(6月)	27	米国 耐久財受注(速報、6月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(6月)	28	日本 日銀金融政策決定会合による主な意見(7月19～20日開催分) 日本 家計調査(6月) 日本 全国消費者物価(6月) 日本 東京都都区消費者物価(7月) ドイツ 消費者物価(速報、7月) 米国 雇用コスト(4～6月期) 米国 GDP(1次速報、4～6月期) 米国 個人消費(1次速報、4～6月期) 米国 PCEコアデフレーター(1次速報、4～6月期) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、7月)		
31	日本 鉱工業生産(速報、6月) 日本 新設住宅着工(6月) ユーロ圏 失業率(6月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、7月)										

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2017年6月28日	ドラギ講演を受けて～「一時的」が流行る風潮の危うさ～
2017年6月27日	メインシナリオのリスク点検～引き続き目立つ円高材料～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年5月分)
2017年6月26日	ブラートECB理事発言を考える～影響力は侮れず～
2017年6月23日	週末版
2017年6月22日	対内・対外証券投資の近況～リセットされたトラブトレード～
2017年6月21日	カシュカリ・エッセイから学ぶこと～信仰(faith)とデータ(data)～
2017年6月19日	日銀金融政策決定会合～「座して円高を待つ」状況へ～
2017年6月16日	週末版
2017年6月15日	FOMCを終えて～「笛吹けど踊らず」の状況強まる～
2017年6月14日	ユーロ相場の本格反転に必要なもの
2017年6月13日	盛り上がらない米国のインフレ期待や与信環境について
2017年6月12日	ECB政策理事会～「露払い」としてのFG文言修正～
2017年6月9日	週末版(英総選挙を受けて～「不要なギャンブル」の成れの果て～)
2017年6月8日	英下院総選挙について～直前の論点整理～
2017年6月7日	110円割れで思うこと～変わり始めた欧米の論調～
2017年6月5日	日銀総資産500兆円突破を受けて～杞憂の出口議論～
2017年6月2日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～出口戦略の順序に変更なし～)
2017年6月1日	2016年末対外資産・負債残高統計～リスク回避の源泉～
2017年5月29日	メインシナリオのリスク点検～目立つ円高リスク～
2017年5月26日	週末版(本邦4月消費者物価指数(CPI)を受けて～依然、埋まらない日米物価格差～)
2017年5月25日	FOMC議事要旨を受けて～株価は耐えられるのか？～
2017年5月24日	相次いで弱体化するFRB高官～動揺する唯一の支え～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年4月分)
2017年5月23日	メルケル首相発言を受けて～異形のドイツがすべきこと～
2017年5月22日	ドル相場の現状認識～4月分REERの公表を受けて～
2017年5月19日	週末版
2017年5月17日	ドルインデックスの急落を受けて
2017年5月16日	ユーロ相場の現状について～投機買い持ちでも上がらず～
2017年5月15日	イタリアG7を終えて～「量」か「価格」か「説得」か～
2017年5月12日	週末版(欧州委員会春季経済予測を受けて～今後心配な「スラックの格差」～)
2017年5月11日	円相場の基礎的需給環境～様変わりする景色～
2017年5月10日	米インフレ期待低迷が映す米経済への過信
2017年5月9日	米商務省声明が予感させる「理不尽な円高」
2017年5月8日	フランス大統領選挙を受けて～おさらいすべきフランスの現状～
2017年4月28日	週末版(ECB理事会を終えて～「次の一手」は引き締めが濃厚～)
2017年4月27日	ECB理事会プレビュー②～フォワードガイダンス撤廃報道について～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年3月分)
2017年4月25日	メインシナリオのリスク点検～燃る「第二次ブラザ合意」疑惑～
2017年4月24日	フランス大統領選挙第1回投票～終わらない政治リスク～
2017年4月21日	週末版(ECB理事会プレビュー～争点はフォワードガイダンスの取り扱い～)
2017年4月20日	米金利低下と円高相場～投資家は「外」から「内」へ～
2017年4月19日	英総選挙の前倒し実施～「絶対に負けられない戦い」へ～
2017年4月17日	米為替政策報告書の読み方
2017年4月14日	週末版(依然として懸念されるユーロ圏の域内格差～顕著になる「地力の差」～)
2017年4月13日	改めて考えるポリシーミックスの在り方
2017年4月12日	試される「リスク回避の円買い」の妥当性
2017年4月11日	円相場の基礎的需給環境～ベークスワップと対外証券投資～
2017年4月7日	週末版(ECB理事会議事要旨～鍵を握るAPPの延長可否～)
2017年4月6日	FOMC議事要旨を受けて～「B/S縮小≒ドル高」とは限らず～
2017年4月5日	真つ当な米利上げ反対論～ブレイナードからカシュカリへ～
2017年4月4日	外貨準備構成通貨の現状(2016年12月末時点)
2017年4月3日	2つの大統領令を受けて～内政の苛立ちを外交で発散へ～
2017年3月31日	週末版
2017年3月30日	ユーロ圏の物価に関する現状と展望～ECBへの影響～
2017年3月28日	メインシナリオのリスク点検～要警戒の4月中旬～
2017年3月24日	週末版(英EU離脱の正式通告について～当面の展望や為替見通し～)
2017年3月22日	ドル/円相場の水準感について～112円割れを受けて～
2017年3月21日	バーデンバーデンG20を受けて～前哨戦は米国に軍配～
2017年3月17日	週末版(日銀金融政策決定会合を終えて～再確認したい現行枠組みの脆弱性～)
2017年3月16日	FOMCを受けて～さほどハト派にあらず？～
2017年3月15日	米インフレ期待低迷から何を讀むか～FOMCの前に～
2017年3月14日	円相場の基礎的需給環境～窮屈になる対外証券投資の環境～
2017年3月13日	ECB理事会を受けて～対米配慮と対独配慮に苦悶～
2017年3月10日	週末版
2017年3月3日	週末版
2017年3月2日	本邦輸出企業の採算レートやそこから推測される展開
2017年3月1日	ECB理事会プレビュー～進むも地獄、戻るも地獄～
2017年2月27日	ECB、公的部門購入プログラム(PSPP)の現状と展望
2017年2月24日	週末版(メインシナリオのリスク点検～問題の所在は全く変わらず～)
2017年2月21日	ユーロ圏投資ファンド統計～ユーロ安の底流にあるもの～
2017年2月20日	ECB理事会議事要旨～窮屈になる追加緩和の環境～
2017年2月17日	週末版(米12月対内・対外証券投資(TICレポート)～対米資本フローに表れる不自信～)
2017年2月15日	イエレンFRB議長議会証言を受けて～正常化を止めるのはドル高か～
2017年2月14日	ドル高を信用できない金融市場の現状～需給への影響も～
2017年2月13日	日米首脳会談を終えて～円高警戒は解けず～
2017年2月10日	週末版(再燃する対ドイツ格差問題～新しい欧州経済・金融のテーマ～)
2017年2月9日	円相場の基礎的需給環境～2016年国際収支を受けて～
2017年2月3日	週末版(トランプ大統領が日本を付け狙う理由～「返り血」が少ない喧嘩相手？～)
2017年2月1日	日銀金融政策決定会合～トランプとFTPLの狭間で～
2017年1月30日	メインシナリオのリスク点検～不幸を生むドル高は続かず～
2017年1月27日	週末版
2017年1月26日	日銀による国債買い入れおべ見送り～為替からの読み方～
2017年1月25日	貿易収支の調整経路～「理不尽な円高」は不可避か～
2017年1月23日	ECB理事会を終えて～窮屈になる緩和環境～
2017年1月20日	週末版
2017年1月19日	改善が顕著なユーロ圏の与信・物価状況～ECBは慢心せず～
2017年1月18日	メイ英首相演説を受けて～反EUの「悪い見本」になるのか？～
2017年1月17日	目の敵にされる4つの通貨～対米黒字を稼ぐ「悪」の枢軸？～